

第2回オープンファクトリー座談会 報告書

1. 実施概要

行事名称	第2回オープンファクトリー座談会
テーマ	「オープンファクトリーの理想と現実とは？」
日時	2022年11月11日(金) 17:30~19:00
場所	Zoom によるリモート開催
参加者	14名 オープンファクトリー主催者 6名 モノマチ 片岡様 / 燕三条工場の祭典 齋藤様 / 福井県眼鏡協会 島村様 / 船橋市観光協会 栗田様 / 横浜市港北区役所 藤原様 / 川口商工会議所 座波様 一般参加者 1名 事務局7名
プログラム	オープンファクトリーニュースルーム 開催完了・予定などの情報共有 オープンファクトリー対談 活動紹介とディスカッション お知らせ 次回以降の予定とアンケート
主な成果	参加企業が抱える事業課題は、オープンファクトリーへの参加で解決しているのかどうか、テーマに沿って意見を交換し共有した。

2. オープンファクトリーニュースルーム

概要	全国約40のオープンファクトリーのうち、今年は30か所で開催。既に17か所が開催済み。11月は10か所開催。燕三条工場の祭典がRed Dot Design 賞を受賞。
----	---

3. オープンファクトリー座談会

活動紹介：台東モノづくりのマチづくり協会主催「モノマチ」

「モノマチ」は12回開催。台東区南部エリア(御徒町～蔵前～浅草橋の2km四方)がモノづくりの町であることを知っていただき町の活性化につなげている。生活雑貨や日用品を中心に、BtoCの企業もあればBtoBの企業もある。ブランド価値の向上を目指して、職人ツアー、コラボ企画、台東デザイナーズビレッジの施設公開などを実施。横の繋がりを通して、スピノフのイベントやコラボが日常的に起こるようになってきた。次回は2023年5月26日～28日に開催予定。

ディスカッション

オープンファクトリーで解決したい参加企業の経営課題は何か、それは実際に解決したのか、参加して何が変わったのか、それぞれのオープンファクトリーで開催目的が異なる中で共通性はあるのか、などの視点で論議。

「モノマチ」の理想は、年間を通して自主的にイベントが開催されること。モノマチを続けるためには運営している協会側の負担を減らす必要がある。スケジュールをタイトにせず、参加企業側に運営の意識を持っていただき、自主的に動けるような仕組みをつくることが重要。

「工場の祭典」は、今年で10年目。コロナ禍でも開催し、お客様が待ち望んでいた様子を感じた。これまでの開催でBtoC向けの商材に付加価値が付いてきた。人の繋がりができたり、社員が増えたりしている。展覧会が評価された結果、Red Dot Design賞を受賞できた。運営としては、全体会議を年に3~4回開催。レギュレーションを規定し、関係者が一丸となってPRしている。このように地域ぐるみで集客することが重要。今後は、BtoB企業の売上げを伸ばし、新しいビジネスを創出するなど、開催の目的を風化させないようにしたい。そのためにはオープンファクトリーである必要は無いかもしれない。参加企業には、持っている能力を発揮し、企業のキャラクターを出して欲しい。

「めがねフェス」は、めがねファンづくりを目的とした、どこを見てもめがねづくしのイベント。今年で9年目、3年ぶりにリアルで開催した。OEMの産地のためBtoB色が強い。オープンファクトリーでは、さまざまなデザインのめがねを楽しんでいただいている。通常の取引では、問屋さんを通して市場の要望を受取っているが、オープンファクトリーは、普段では得られない、エンドユーザーの生の声が得られる機会になっている。

「川口オープンファクトリー」の目的は地域貢献。BtoBが多いため産業観光としてのイベントという性格が強い。

4. アンケート結果

オープンファクトリーニュースルーム、オープンファクトリー対談、運営、共に高いご評価をいただいた。主なコメントは以下のとおり。

「他地域の取り組みをまとめて知ることができた」「まだ知らないオープンファクトリーを知ることが出来て良かった」「開催予定に名を連ねることができるよう早く動かななくては！と思った」「埼玉や東京など、近い場所は時間を作ってお邪魔したいと思った」「課題には共通する部分があり、大事な問いかけであると認識した」「目的や理想を立止まって考え直すことが大事であると実感した」「オープンファクトリーの理想について、さまざまな考え方を勉強できた」「それぞれの苦労や工夫を知ることができた」「今後も(オープンファクトリーサミットを)続けていただきたい」

以上